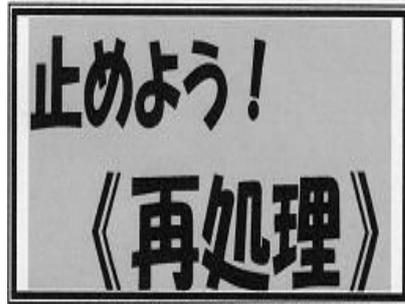


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
《本紙の全バックナンバー掲載》



《**天恵の海**》
2022(令和 4年)
12月 4日
第240号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

女川原発1号機 天井クレーン走行部き裂事故質問状 東北電力回答 耐震疑惑深まる



口頭回答会議事録は当会ホームページに。
<http://sanriku.my.coocan.jp/221102onaform.pdf>



震度5で
き裂? (写真)
き裂箇所 (写真)

き裂発生は女川原発だけか?

女川原子力発電所の天井クレーン支持台座で発見された走行部のき裂について、一月二日、私たちの質問状への会社側の口頭回答があり、それに対する市民代表の質疑による意見交換会が開催されました。浮かび上がったきた問題点について、当会の学習会で出された所感や緊急対策の必要性について報告します。

東北電力回答 説明会の感想

口頭回答にこだわったのは何故か?

◇電力の広報担当者から「質問状の回答は電話で行います」と言われ唖然としました。それでは回答の真意が分からないとして折衝した結果、「本店で一時間、直接口頭で回答」ということになりました。不満ではありませんが、とりあえず、質問と意見交換が出来て幸いです。

◇東北電力本店会議室での、原発技術担当者と広報担当者六人の応対は日本原燃と比べればかなり丁寧でした。

◇「冒頭の撮影と音声録音も了解」ということで、ほぼ正確に議事録を完成出来ました。◇但し、一時間の制限時間は短か過ぎました。「ゆっくり明瞭にお願いします」という市民側の要請もあって、本当にゆっくりと質問文まで読み上げ、時間がかりました。その分市民側の質問と意見交換時間が少なくなり一言も発言出来なかった出席者が複数出たのは残念でした。結局「一時間」を約二〇分オーバーして終了しましたが、質問読み上げがなければもつと有効な会話が出来たという感想がありました。

「回答」から見える 更なる疑惑

私たちの学習会では、『東北電力の回答』について次のような疑惑が浮かび上がりました。

(1)劣化した建屋の5階にある使用済燃料プールは大地震に耐えられるのか?

(2)観測史上最大の地表変動(水平変動・沈降)の原発建屋への影響は解明されたのか?

(3)基準地震動ss1000ガルは2号機だけの適合でよいのか? 1号・3号機の耐震はどうするのか?

(4)天井クレーン支持台車のき裂が本当に今年三月一六日の地震が原因なら、耐震の信頼性にかける事になる。

(5)天井クレーンが、重量物や使用済核燃料を搬送中大地震が襲来したときの、最悪事態の想定に答えていない。

■東北電力側の回答は1号機クレーンの「支持台座のき裂は本年三月の福島沖地震による」とのことであったが、説明者から「1号機は四〇年以上も経つていまして、過去からいろんな地震があつてそれが影響したのかどうか、そこまで

当会学習会で出た 所感・意見

は原因がわかっていません」という発言があった。これは真実を語っていると思う。

■これまでの地震でクレーンのみならず、2号機の壁にひびが1130ヶ所もあるという。建屋全体に様々な損傷が報じられている。

■大地震による大被害を予測し対策を立て被害を少なくするよう全力を注ぐべきである。例えば使用済み核燃料が、女川原発1号・2号・3号機で合わせて2970体（ウラン480トン）ある。福島原発事故で危機に陥った4号機（下記のコラム参照）の使用済み核燃料の二・一倍である。重さもプールの水と合わせてかなりの重量であり、しかも原子炉建屋の上層にある。ひびやき裂だらけの状態で巨大地震に襲われたらどうなるのか？原子炉の老化のみならずコンクリート土台、クレーンの亀裂まで総点検が必要である。

■「女川原発環境保全

監視協議会」が六月に開催されたのに「走行部支持台座にき裂発見」の事実が報告されなかった。これは隠ぺい行為である。事故は早期に情報公開すべきだ。（仙台の市民団体から）

その他

■ウクライナで原発を占拠したりその周辺で銃火を交えたり。常識では考えられない。一刻も早く戦争を終わらせなければならぬ。

■岩手で憲法と原発のテーマで講演した講師の言葉が思い出される。「原発を並べて自衛戦争は出来ない」と題して、日本の原発は戦争を予測して設計されていない。原発は軍事力では守れない。まずは原発を止めて脅威を除き、そして戦争ではなく平和外交で解決すべき。それが日本の取るべき道。と述べた。

*参照「原発を並べて自衛戦争は出来ない」小倉志郎
https://ameblo.jp/kobayashi-11339264413.html

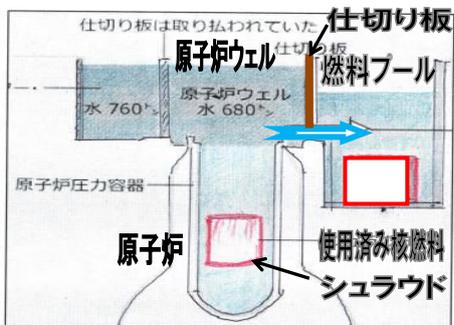
try-11339264413.html

福島事故4号機プールの奇蹟

「天恵の海」第238号に、脱原発核燃サイクル全国ネットワーの院内集会での、田窪雅文氏の講演『使用済み核燃料プール火災の恐怖』を載せました。

核燃料の冠水が継続

福島事故原発4号機は水素爆発により使用済み核燃料プールがむき出しになり、プールの冷却水喪失による核



Uチューブ動画
デモクラシータイムス
白井聡 日本の正体
『驚愕の無責任判決』
鼎談
ノンフィクション作家 高瀬 毅
政治学者 白井 聡
弁護士 馬奈木 巖太郎

燃料の過熱・火災が恐れられました。幸いにも水が残っていて核燃料の冠水が継続して

二つの偶然による幸運

この歴史的な大事件には、二つの偶然が幸運をもたらしたと言われています。きちんと当日の経過を残すべきと資料を探してみました。

いざとなるとなかなか見つからなかったのですが、Uチューブ「デモクラシータイムス」にありました。最近の動画です。接写して借用しました（上図）。

本来水が入ってないはずの休止中の4号機原子炉ウエルに水が入っていたのは事故直前まで炉心のシュラウド（炉心を覆う円筒の構造物）の工事をやっていて被ばく防止のために水を張っていたからです。

- ①隣接の「原子炉ウエル」の水と原子炉ウエルにつながる部分の水
→プールに流入
本来なら仕切り板があるが、地震で外れたものとみられる
- ②原子炉ウエルは通常水で満たされない
事故前の年末 原子炉の「シュラウド」の付け替え工事
放射線で「放射化」 それを通過させる原子炉に水
11年3月7日に抜き取られるはずが、シュラウド切断用具に不具合
→付け替え工事工期延長

- ① 三月七日には水を抜く予定であったが**工具が不具合で延期した**。
- ② 地震襲来時（水素爆発時の説もある）、原子炉ウエルの水と燃料プールの水との仕切り板が振動で動き、**隙間が出来て、水が使用済み核燃料プール側に流れ込んだ**。だから水があった！
将に、間一髪の危機！
原発はもうやめよう！
原発上層に、重く危険な核燃料を貯めるのはやめよう！
(尚)

小幡ますみさん講演会 in 盛岡

(こわた)
福島県大熊町町議会議員
演題 **原発が起こした
一生かけてもぬぐい切れない苦しみ**

とき
2023年1月15日(日)
13時半～15時半
ところ **盛岡市都南公民館(キャラホール)**
3F 第一研修室